



2027年3月期 第1四半期 決算補足説明資料

2026年8月

東証スタンダード市場：3423

 株式会社 **エスイー**

Engineering With You.



中東情勢の緊迫化による業績への影響について

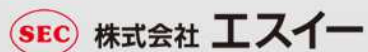
中東情勢の緊迫化による業績への影響については現時点で合理的に見通すことは困難であるため、業績見通しには織り込んでおりません。

今後業績予想の修正を行う必要が発生した場合には速やかに公表いたします。

第1四半期時点で以下の事象が生じておりますが、業績見通しの修正が必要な状況には至っておりません。

- 一部資材における価格上昇や調達リードタイム長期化

Engineering With You.



連結売上高

5,741 百万円
(前年同期比 +11.2%)
(進捗率 23.0%)

売上総利益

1,566 百万円
(前年同期比 +10.8%)
(進捗率 22.1%)

経常利益

32 百万円
(前年同期比 -%)
(進捗率 5.5%)

親会社株主帰属当期純利益

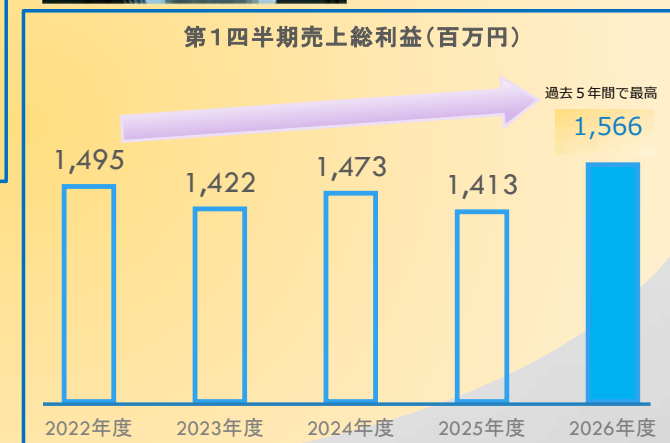
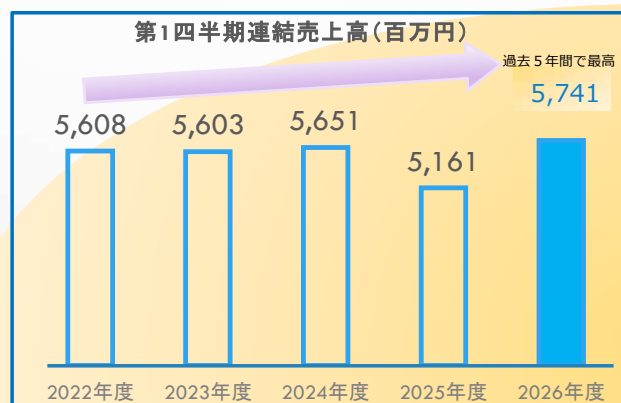
10 百万円
(前年同期比 -%)
(進捗率 6.5%)

2027年3月期 第1四半期実績

■ 増収増益

前年同期比

- 前年同期比、増収増益。今年度は好調な滑り出し
- 大型案件の出荷が重なったことより、売上高・売上総利益は過去5年間で最高の水準



I. 2027年3月期 第1四半期 連結決算実績

II. セグメントの状況

III. 通期業績見通し

I. 2027年3月期 第1四半期 連結決算実績

II. セグメントの状況

III. 通期業績見通し

第1四半期連結決算実績（前年同期比）

ポイント

前年同期比～増収増益

- ・大型案件の出荷が第1四半期に重なったため、売上高・売上総利益が増加。
- ・一方、販管費も増加したが、増収効果が上回り、営業利益以下も増益となった。

連結損益計算書

(百万円)

	2025年度 第1四半期実績	2026年度 第1四半期実績	増減	増減率
売上高	5,161	5,741	+580	11.2%
建設用資機材	2,227	2,386	+159	7.1%
建築用資材	2,268	2,668	+400	17.7%
建設コンサルタント	207	221	+13	6.6%
補修・補強工事業	458	465	+7	1.6%
売上総利益	1,413	1,566	+153	10.8%
対売上高対比	(27.4%)	(27.3%)	(▲0.1%)	
販売管理費	1,503	1,544	+41	-
内 研究開発部門の人件費経費	184	123	▲60	-
営業利益	▲89	22	+111	-
対売上高対比	(▲1.7%)	(0.4%)	(+2.1%)	
建設用資機材	▲41	48	+89	-
建築用資材	136	142	+6	-
建設コンサルタント	24	0	▲24	-
補修・補強工事業	6	▲37	▲43	-
調整・消去	▲216	▲132	+84	-
経常利益	▲64	32	+97	-
対売上高対比	(▲1.3%)	(0.6%)	(+1.8%)	
親会社株主に帰属する四半期純利益	▲72	10	+82	-
対売上高対比	(▲1.4%)	(0.2%)	(+1.6%)	

複数の大型案件の出荷

鉄骨工事分野で大型の繰越案件の出荷

増収効果による増益

戦略的な人材強化、事務所移転による一時費用の増加

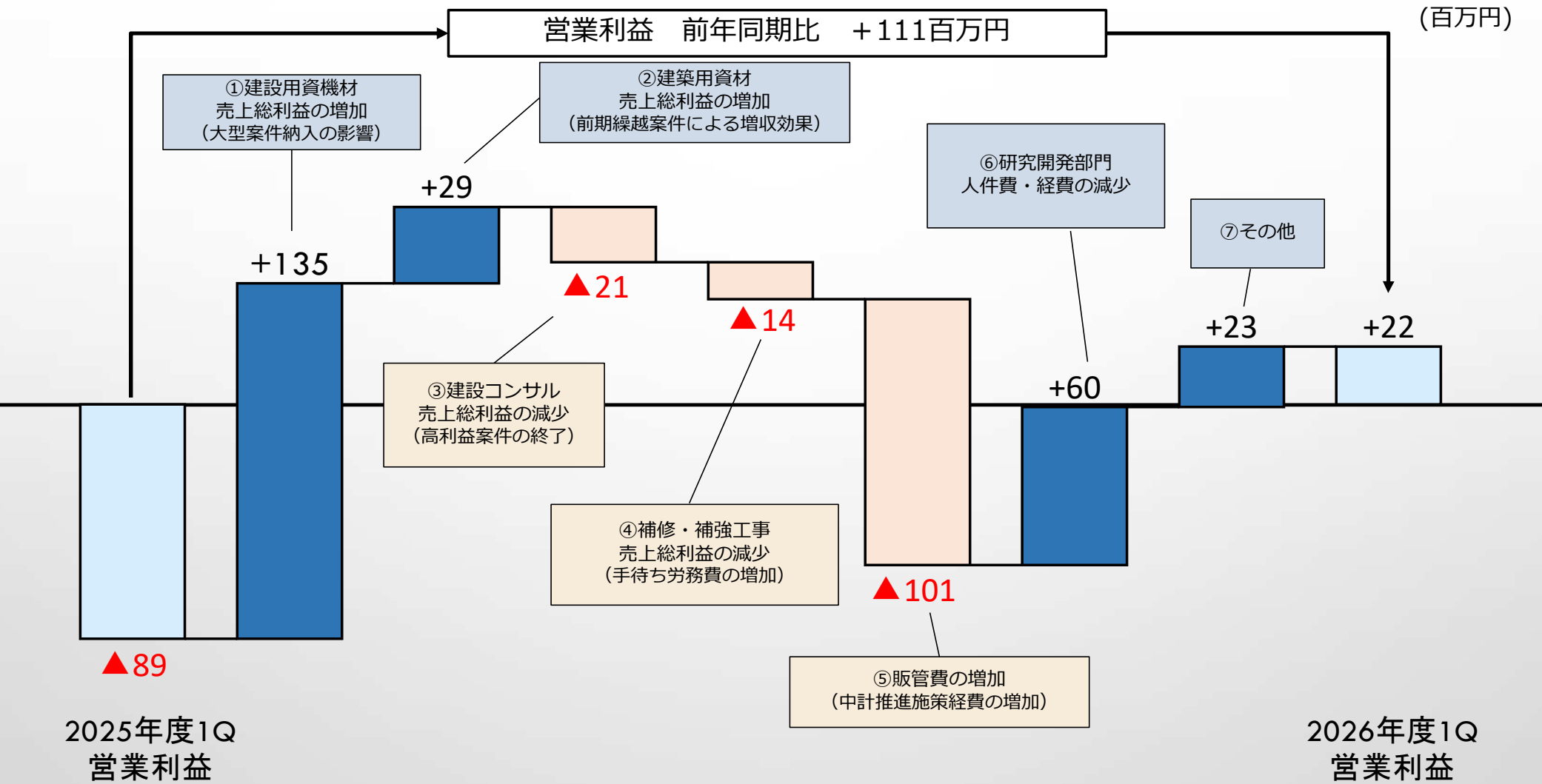
研究開発の進捗状況により、第1四半期は減少。

販売管理費の増加を増収効果が上回り、増益。赤字から脱却。

販売管理費の増加を増収効果が上回り、増益。赤字から脱却。

販売管理費の増加を増収効果が上回り、増益。赤字から脱却。

第1四半期連結決算実績（営業利益増減）



第1四半期連結決算実績（公表予想比）

ポイント

公表予想比～順調な出だし

- ・公表予想値は、売上高は若干の減収、利益は微増と予想。第1四半期は全てのセグメントで前年同期比増収。
- ・但し、大型案件が重なったことが主因。不振の分野もあるため、予断を許さない状況。

(百万円)	2025年3月期	2026年3月期					2026年3月期	2027年3月期				2027年3月期 (予想値)	
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q		2Q	3Q	4Q			
		前年同期比（累計）						前年同期比（累計）					
連結売上高	25,887	5,161	▲490	▲1,051	▲975	▲486	25,401	5,741	+580 (+11.2%)	—	—	—	25,000
建設用資機材	12,500	2,227	▲309	▲811	▲845	▲480	12,019	2,386	+159 (+7.1%)	—	—	—	12,120
ケーブル製品分野・鉄鋼製品分野等	10,560	1,926	▲270	▲679	▲697	▲241	10,318	2,139	+213 (+11.1%)	大型案件が寄与			—
コンクリート製品分野	1,939	300	▲38	▲131	▲148	▲238	1,700	246	▲54 (▲18.0%)	—	—	—	—
建築用資材	10,371	2,268	▲213	▲400	▲390	▲511	9,860	2,668	+400 (+17.7%)	—	—	—	9,850
建築金物分野	6,857	1,632	▲20	▲141	▲163	▲215	6,641	1,550	▲81 (▲5.0%)	—	—	—	—
鉄骨工事分野	3,514	635	▲193	▲259	▲227	▲295	3,218	1,117	+481 (+75.8%)	大型案件が寄与			—
建設コンサルタント事業	636	207	+46	▲2	+68	+51	687	221	+13 (+6.6%)	—	—	—	698
補修補強工事業	2,379	458	▲13	+162	+192	+454	2,834	465	+7 (+1.6%)	—	—	—	2,330
営業利益 (対売上高比)	849 (3.3%)	▲89 (▲1.7%)	▲70	▲332	▲433	▲250	599 (2.4%)	22 (0.4%)	+111 (+2.1%)	(-)	—	—	603 (2.4%)

連結貸借対照表

ポイント

配当金の支払いにより純資産が減少。運転資本の減少、借入金の減少により、自己資本比率は若干の改善。

貸借対照表

(百万円)	2026年3月末	2026年6月末	差異
流動資産	15,820	14,122	▲1,697
現預金	5,106	4,931	▲174
売掛債権	8,047	6,127	▲1,920
在庫	2,384	2,738	354
固定資産	8,741	8,894	152
有形固定資産	7,626	7,714	87
資産合計	24,561	23,016	▲1,544
流動負債	8,936	8,084	▲852
仕入債務	5,261	4,792	▲468
短期有利子負債	1,851	1,614	▲236
固定負債	5,134	4,788	▲346
長期有利子負債	3,743	3,377	▲365
負債合計	14,071	12,872	▲1,199
純資産合計	10,489	10,144	▲345
負債純資産合計	24,561	23,016	▲1,544

諸指標

	2026年3月末	2026年6月末	差異
運転資本 (百万円)	5,170	4,073	① ▲1,097
有利子負債 (百万円)	5,594	4,991	② ▲602
自己資本比率 (%)	42.6	43.9	③ +1.4
D/Eレシオ	0.53	0.49	④ ▲0.04

①

②

④

③

I. 2027年3月期 第1四半期 連結決算実績

II. セグメントの状況

III. 通期業績見通し

セグメント区分の内容の変更

「中期経営計画2030」の実施に当たって、当社グループの業績管理上の区分の変更及び明確化を実施。
それに伴い、報告セグメントの情報の内容区分も以下のようにしております。

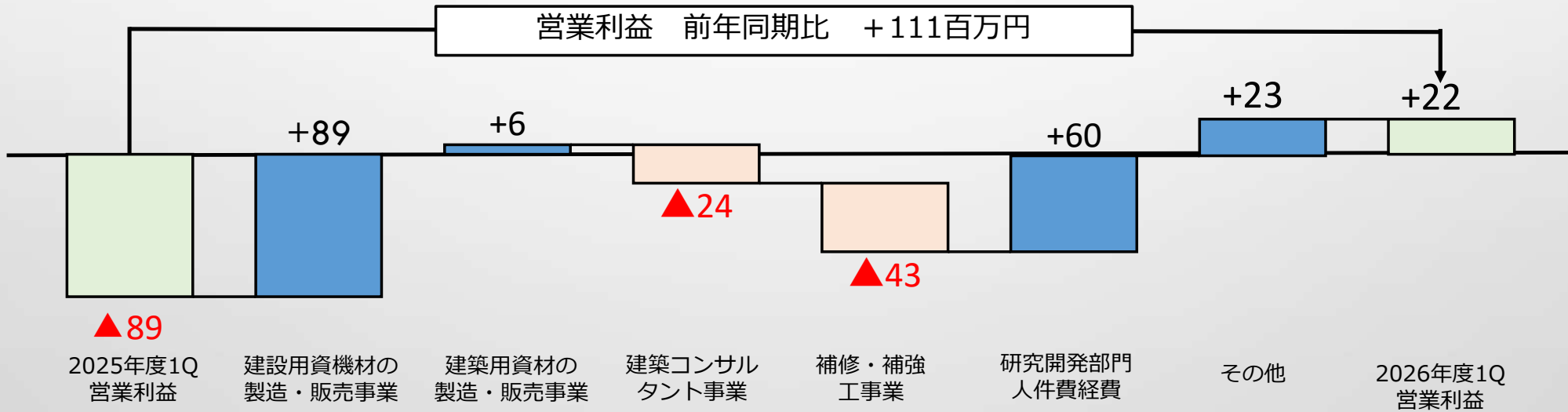
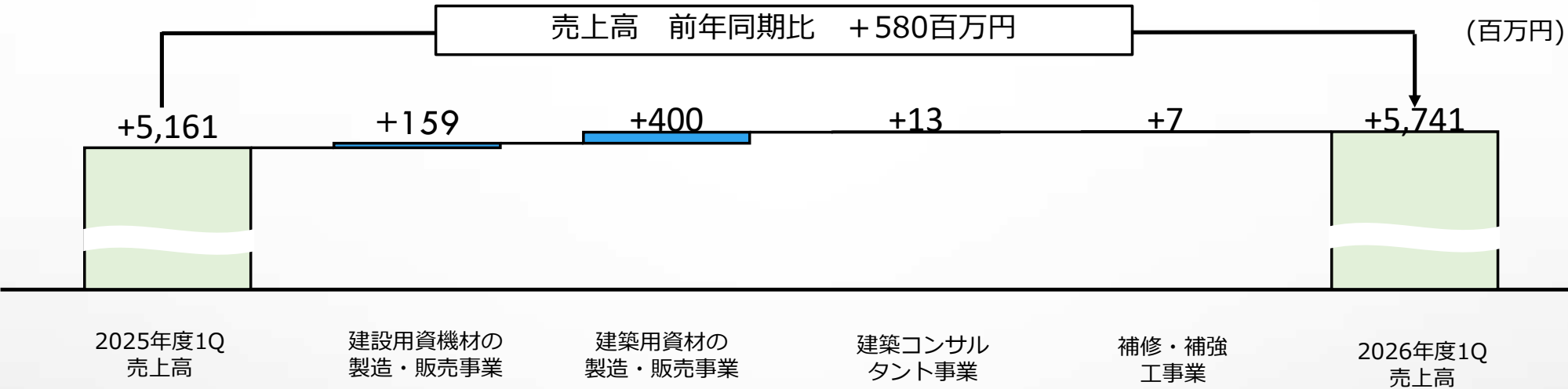
[2025年度まで]		[2026年度以降]	
報告セグメントに帰属しない研究開発部門の人件費・経費		報告セグメントに帰属しない研究開発部門の人件費・経費	
発電事業にかかる研究開発部門の人件費・経費		発電事業にかかる研究開発部門の人件費・経費	
発電事業以外の特定の研究開発部門の人件費・経費			
建設用資機材の製造・販売事業		建設用資機材の製造・販売事業	
		(変更) 発電事業以外の特定の研究開発部門の人件費・経費	
		(新規) 「中期経営計画2030」の新規3事業	

2026年度以降は「報告セグメントに帰属しない研究開発部門の人件費・経費」の対象部門を、発電事業にかかる研究開発部門の人件費・経費のみとし、それ以外については、「建設用資機材の製造・販売事業」にて、管理・報告していきます。
また、「中期経営計画2030」公表時には、既存の報告セグメントとは別表示で説明していた中計新規3事業については、「建設用資機材の製造・販売事業」に管理・報告していきます。

[2027年3月期第1四半期決算短信での変更内容]

(百万円)	2025年度1Q	2026年度1Q	差 異	
建設用資機材のセグメント利益	▲41	48	+89	← 変更後 第1四半期決算短信記載のセグメント情報
変更前	▲1	95	+96	← 変更前の区分での第1四半期決算短信のセグメント情報
研究開発部門の人件費・経費	▲40	▲46	▲6	← 変更前 報告セグメントに帰属しない研究開発部門として管理していたもの

セグメント別増減（前年同期比）



(百万円)	2025年3月期	2026年3月期						2027年3月期 (予想値)					
		1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	前年同期比 (累計)	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	前年同期比 (累計)		
		前年同期比 (累計)					前年同期比 (累計)						
売上高	12,500	2,227	▲309	▲811	▲845	▲480	12,019	2,386	+159 (+7.1%)	－	－	－	12,120
ケーブル製品分野・鉄鋼製品分野等	10,560	1,926	▲270	▲679	▲697	▲241	10,318	2,139	+213 (+11.1%)	－	－	－	－
コンクリート製品分野	1,939	300	▲38	▲131	▲148	▲238	1,700	246	▲54 (▲18.0%)	－	－	－	－
セグメント利益 (対売上高比)	627 (5.0%)	▲41 (▲1.8%)	▲48	▲144	▲241	▲74	553 (4.6%)	48 (2.0%)	+89 (－)	－	－	－	341 (2.8%)

○前年同期比～増収増益

売上高 (前年同期比+7.1%)

【主な要因】 ケーブル製品分野において、国内外における大型案件が寄与

営業利益 (前年同期から+89百万円の改善)

【主な要因】 増収による増益分が成長投資に伴う人件費・経費の増加を上回る

○公表予想値～売上・利益ともにますますの滑り出し

予想値の構造

売上はほぼ前年並みの一方、新規3事業を含めた成長投資の増加に伴い減益を予想。

進捗状況

鉄鋼製品分野、コンクリート製品分野で苦戦を強いられるも、ケーブル製品分野の大型案件がカバーする形に。

(大型案件の一部は、当初想定より早い時期の納入になったもので、通期での影響はない)

※今年度より、研究開発部門の人件費・経費を一部組み替えております。それに伴い2025年3月期、2026年3月期も変更しております（11頁をご参照下さい）。

(百万円)	2025年3月期	2026年3月期						2027年3月期 (予想値)					
		1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	前年同期比 (累計)	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	前年同期比 (累計)		
売上高	10,371	2,268	▲213	▲400	▲390	▲511	9,860	2,668	+400 (+17.7%)	—	—	—	9,850
建築金物分野	6,857	1,632	▲20	▲141	▲163	▲215	6,641	1,550	▲81 (▲5.0%)	—	—	—	—
鉄骨工事分野	3,514	635	▲193	▲259	▲227	▲295	3,218	1,117	+481 (+75.8%)	—	—	—	—
セグメント利益 (対売上高比)	541 (5.2%)	136 (6.0%)	+35	▲29	▲52	▲127	414 (4.2%)	142 (5.4%)	+6 (+4.4%)	—	—	—	565 (5.7%)

○前年同期比～増収増益

売上高 (前年同期比+17.7%)

【主な要因】 鉄骨工事分野において前年度からの繰越案件が寄与

営業利益 (前年同期比 + 4.4%)

【主な要因】 建築金物分野の不振、鉄骨工事分野の手戻り原価の発生により、
全体としては微増に留まった

○公表予想値～スタートとしては好調だが、今後の案件獲得には課題も残る

予想値の構造 首都圏を中心とした再開発需要はあるものの、計画延期や労働時間短縮、人手不足の影響もあり売上の予想は前年並み。
地方の商圏は縮小傾向であり、案件採算確保を優先。

進捗状況 前期から繰越した大型案件が寄与し、想定以上の建築金物分野の不振をカバー。
建築金物分野ではシェアの維持に注力しつつ、採算性の向上を図っていく。

(百万円)	2025年3月期	2026年3月期					2027年3月期 (予想値)						
		1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	前年同期比 (累計)	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	前年同期比 (累計)		
売上高	636	207	+46	▲2	+68	+51	687	221	+13 (+6.6%)	—	—	—	698
セグメント利益 (対売上高比)	▲100 (▲15.9%)	24 (12.0%)	+48	+47	+120	+137	36 (5.3%)	0 (0.2%)	▲24 (▲98.6%)	—	—	—	12 (1.9%)

○前年同期比～増収減益

売上高 (前年同期比+ 6.6%)	【主な要因】	期初受注案件の着実な進捗
営業利益 (前年同期比▲98.6%)	【主な要因】	前年同期にあった高利益率の案件が終了した影響で減益

○公表予想値～引き続き受注活動に重点的に注力・強化

予想値の構造	JICA以外の案件を獲得を強化し、前年度並みの売上高を目指す。高利益案件の終了により減益を見込む。
進捗状況	繰越案件の消化は順調、引き続き受注拡大に注力し、達成を見込む。

(百万円)	2025年3月期	2026年3月期						2027年3月期 (予想値)					
		1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	前年同期比 (累計)	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	前年同期比 (累計)		
売上高	2,379	458	▲13	+162	+192	+454	2,834	465	+7 (+1.6%)	—	—	—	2,330
セグメント利益 (対売上高比)	240 (10.1%)	6 (1.4%)	▲8	+0	▲27	+9	249 (8.8%)	▲37 (▲8.0%)	▲43 (▲667.0%)	—	—	—	195 (8.4%)

○前年同期比～増収減益

売上高 (前年同期比+1.6%)

【主な要因】 期初受注案件の着実な進捗

営業利益 (前年同期比▲43百万円)

【主な要因】 設計・工事での稼働率低下、子会社本社移転に伴う一時費用の計上により赤字となった。

○公表予想値～受注消化は順調なるも、手待ちも発生。後半に向けて人員効率を改善できるかが課題

予想値の構造 期中受注残の積み上げに注力、案件規模の小型化等で消化効率が下がるため、売上・利益ともに大幅な減少予想。

進捗状況 期初受注残は順調に消化するも、 期中受注残積み上げは想定を下回る。

手待ち時間も多く発生し、利益を圧迫する結果に。利益率の高い元請受注の増加を目指す。

I. 2027年3月期 第1四半期 連結決算実績

II. セグメントの状況

III. 通期業績見通し

ポイント 現時点で通期の業績予想は変更せず、据え置く

- ・第1四半期が前年同期比を大きく上回ったのは、大型案件の寄与が大きく、それ自体は通期では想定内。
- ・一方で、期初想定より厳しい分野もあり、予断を許さない状況。
(遅延なく対応施策を検討・実施を進めていく)

(百万円)	2027年3月期 (予想値)	業績予想作成時での想定 (前年度比での想定 + : プラス要因、△ : マイナス要因)			第1四半期終了時点での今後の見込み (- : ほぼ想定通り △ : 当初想定より厳しい)	
		影響	要因	セグメント・分野	見通し	状況
連結売上高	25,000	+	大型案件	ケーブル製品分野	—	一部案件が第1四半期に前倒し
				鉄骨工事分野	—	通期では想定通り
売上総利益	7,088	+	価格転嫁の進展	建設用資機材	—	ほぼ想定通り (一部で売上確保のための価格競争激化の兆し)
				建築用資材		
営業利益	603	△	地方商圏の縮小	コンクリート製品分野	△	当初想定より厳しい
				建築金物分野	△	当初想定より厳しい
				鉄骨工事分野	—	ほぼ想定通り
経常利益	600	△	工期平準化（働き方改革・職人不足等 構造変化）	建設用資機材	—	ほぼ想定通り
				建築金物分野	△	当初想定より厳しい
親会社株主に 帰属する当期 純利益	159	△	成長分野への人員増強等の先行投資	建設用資機材	—	ほぼ想定通り
		△	原材料価格・エネルギー価格の上昇	建設用資機材 建築用資材	—	ほぼ想定通り (但し、中東情勢による悪化は含めていない)

今後の情報につきましては、
株式会社エスイー ホームページ IR情報 <https://www.se-corp.com/ja/ir>
をご覧ください。

将来見通しや分析に関する記述についての詳細〔ご参考〕

当資料及び説明会は、あくまで株式会社エスイーをより深く理解していただくためのものであり、当資料、説明会の内容及び画面に記載されたいかなる情報（リンク先の情報も含む）も、当社株式の購入や売却を勧誘するものではなく、またこれらに関する投資アドバイス目的で作成されたものでもありません。

当資料、説明会の内容や画面に記載されている（リンク先に記載されているものを含む）当社の分析、業績見通し、計画、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、現時点で入手可能な情報に基づく見解や将来の業績に係る見通しであります。これらは現時点で入手可能な情報に基づき株式会社エスイーの経営者が判断したものであり、リスクや不確実性を含んでいます。従いまして、これらの分析・業績見通しのみに依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。

Engineering With You.